

Anton Bruckner (1824–1896)

„Os justi”

A.ブルックナー 「正しき人の口は」

原題に Graduale in F-Lydisch とある。これはミサの昇階唱として歌われ、F (ファ)を基音としてリディア旋法(教会旋法)で書かれている。シャープやフラットなどの調性感を現わす記号は避けている。

Os justi meditabitur sapientia
et lingua ejus loquetur judicium

正しき者の口は知恵を語り
彼の舌は正義を語る

Lex Dei ejus in corde ipsius:
et non supplantabuntur
gressus ejus. Alleluia.

神の法は彼の心の中にあり
彼の歩みは、つまづくことがない
神を讃えよ (詩篇 36, 30-31)

* 4 和音や 5 和音の近代的な和音は
使わず 3 和音中心の古風な響きである。
パレストリーナなどのルネサンス音楽に接近している。
* 最後はグレゴリオ聖歌を予感させて終わる。